

令和元年度の管理運営状況（東京体育館）

指定管理者：公益財団法人東京都スポーツ文化事業団グループ

大項目	中項目	確認項目	特にアピールしたい点(具体的に)、改善点等
管理状況	適切な管理の履行	施設・設備の保守点検	○令和元年度は、平成30年度に引き続き改修工事が行われ、令和2年2月からは東京2020大会組織委員会による東京2020大会に向けたオーバーレイ工事が開始されたため、年間を通じて休館となった。 ○改修工事、オーバーレイ工事の期間を通じ、工事設計業者・施工業者への既存設備説明や立ち合い、アドバイスを行うとともに、綿密な工事調整を行い工事に全面的に協力した。また、工事中も警備業務や各種維持管理業務を適切に実施した。
		施設の提供について	○休館期間中、東京都及び大会組織委員会の施設利用により、「車いすラグビーワールドチャレンジ2019」（10月）及び「ITTF卓球ワールドカップ団体戦2019 TOKYO」（11月）を開催した。両大会の開催に当たっては、選手が最高のパフォーマンスを発揮するとともに、観客が安全・安心かつ快適に観覧できるよう、主催者との緊密な連携体制を構築し、円滑かつ効果的な大会運営に全面的に協力した。 ○東京2020大会の延期決定に伴い、令和2年12月以降に予定されている開館のためのオーバーレイ工事設置物の撤去等について東京都及び大会組織委員会と調整を行った。
	法令等の遵守	個人情報保護の取組	○個人情報保護の取組みとして例年行っている個人情報保護研修に加え、個人情報を取り扱う業務における具体的なリスクを検証する臨時研修を行い、個人情報保護の体制を強化した。
		環境配慮への取組	○ゴミの分別徹底・排出量削減に向け、休館中に行った2つの大会において、施設側でゴミ箱を設置しない等、観客にゴミの持ち帰りを促す運用方法を試行した。この結果を踏まえ、再開館後の運用方法を検討していく。
		情報漏えい事故への対応	○警視庁や内閣官房とのセキュリティ対策に関する情報共有や、両機関が実施する研修等への参加を通じて、連携体制を継続している。 ○東京2020大会会場施設の管理者であることから、サイバーセキュリティ対策として、統合集中管理による監視体制の強化を実施した。
	安全性の確保	防災への配慮・緊急時対策	○休館期間中も管理権原者、防火管理者として東京体育館の防災管理を行い、改修工事施工業者と適宜情報交換・連絡を行うなど連携した防災管理を実施し、1年間無事故であった。 ○新型コロナウイルス感染症の予防対策として、手指の消毒やマスクの着用を徹底し、工事業者・組織委員会にも協力を要請した。
		適切な産財管理	物品の管理
事業効果	事業の取組み	スポーツ振興事業の実施状況	○東京体育館が休館中のため、東京武道館等に会場を移し、スポーツ振興のための取組みを継続した。 ○子供から高齢者まで、また障害の有無や体力の程度に関わらず、誰もがライフステージに応じてスポーツに親しみ、楽しむための取組や、アスリートの育成に寄与するための支援事業や指導者育成事業など、対象とする世代のバランス等も考慮した全11事業を実施した。
		利用者の満足度	○スポーツ振興事業参加者を対象に行った満足度調査では、全ての人が「大変満足」または「まあ満足」と回答し、満足度は100%であった。満足の内訳として「事業の内容や指導について」の項目が満足度87.9%で特に高かった。